

審査の結果の要旨

氏名 中尾 俊介

本論は幕末から明治前期にかけての横浜開港場を巡る都市史研究である。時代としては近世から近代への移行期に焦点を絞った都市史といえるが、他の多くの都市に較べて開港場としての性格を与えられた横浜は近代化の波頭を捉えてきわめて劇的な変化を遂げたと評価される一方、その具体的な内実はずし十分に議論されてきたとは言いがたい。本論は幕末から近代初頭の横浜の都市的状況について史料を博搜し、その具体的な社会＝空間構造をはじめて明らかにした労作であり、開港場の近代を従来の紋切り型の近代化で括らず、近世の継続と切断の両面から丁寧に跡づけた優れた都市史研究の成果であると評価できる。

本論は研究史を整理し、本研究の位置づけを行った「本研究の視角－横浜開港場の都市史研究の意義－」を冒頭に置き、八つの個別研究の章からなり、最後に全体の研究成果をまとめた結章で締めるという構成をもつ。

「本研究の視角」において、横浜開港場を開港以前の状況をまず明らかにする必要性を強調する。神奈川宿や湊の近世的状況がやがて近代の前史をなす開港場が生まれることによってどのような変貌を遂げたかを単に空間的な変容のみならず流通やそれを支えるインフラに携わった人々の分節社会の動向と重ねて理解する視線はここ十数年の間に成熟を遂げた社会＝空間構造論を下敷きにしているが、依然として社会と空間はうまく接合しないまま分析が蓄積されてきた感が否めない。本論はその未達成の領野に果敢に挑戦した意欲作である。

本論の第一章から八章までのテーマはほぼ時代順に並べられているが、それぞれの章での力点の置き方は異なり、論点の切り出し方も変化する。第一章では本論全体の通奏低音となる近世後期当該地の社会＝空間が素描される。近世後期の神奈川の水際の空間的特質が土地関係史料はもとより絵画資料、明治期古写真などを駆使しつつ復元された。神奈川宿を中核とした都市空間は海面埋立などを通して次第に水際へと拡張し、神奈川湊と接続するベクトルが顕著になる。

第二章開港期の「神奈川港湾中」は、横浜開港場成立前後に神奈川湊をベースにして活動する廻船問屋の動向を追跡した章である。安永六年の相論から判明する事実は神奈川湊廻船問屋の海面をめぐる領域支配観念を示しており、廻船の停泊可能な範囲は廻船問屋の死活にかかわる空間であった。横浜開港場はまさに停泊場所としての海面と接するかたちで誕生したのであって、単なる流

通の便だけでなく、廻船問屋側の利害とも合致する位置であったことは注目に値する。

第三章は横浜開港場の都市形成に焦点が絞られる。本章は本論全体のなかでもとくに明らかにされた新事実を含めて白眉となる部分であって、都市史研究全体にとっても貴重な貢献が行われたといえる。横浜開港場のプランは従来、本町通りを中軸にした京間六〇間のレイアウトであり、江戸町をひとつのモデルとしていると理解されてきたが、幕府・神奈川奉行による出店募集と全国に及ぶ出店希望者との調整はきわめて複雑な様相を示しており、単純に上からのマスタープラン通りの都市形成が行われたとはいえない。むしろさまざまな利益集団の輻輳する草刈場としての地所の括りだしがみられる。

第四章は惣町と交易商を扱った章であり、前章で誕生した横浜開港場がその後どのような都市的展開を遂げたかを惣町を対象にして売込商仲間の動向の詳細から浮かび上がらせるという手法をとっている。売込商仲間がやがて惣町的な論理に依拠するかたちで上昇していくプロセスが具体的な屋敷地・地所拝借の変化を通して描かれる。

第五章は横浜開港場の波止場という港湾インフラが取り上げられる。安政期の開港と共に造成された波止場は、運送集団、人足方などの統制を通じて考えると、ある意味で近世的な湊と近代的な埠頭の間位置するインフラと評価できる。しかもその中間的インフラを舞台として明治以降流通を担う集団が成長した。

第六章は海岸の民有地化、すなわち明治前期の埠頭と鉄道が一体化する横浜の近代を捉えた章であるが、史料が限られており一部見通しが述べられるにとどまる。今後の深化を期待したい。

第七章は第一章で取り扱った神奈川宿周辺の海外沿いの埋立地がやがて鉄道や工場用地に呑み込まれていくプロセスが分析される。ここでは伝統都市の延長上にこうした近代インフラを位置づける視点が出されているところに著者の新しい視角があらわれている。そして最終章の第八章は江戸内湾という大規模な海域における新都市横浜の位置づけがされている。

以上、本論は八章の個別論考が相互に密接な関連をもちつつ、横浜開港場の社会＝空間としての都市史を膨大な史料分析をもとに描いた力編であって、従来の都市史研究のレベルを格段に押し上げることに貢献した。よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。

以 上